

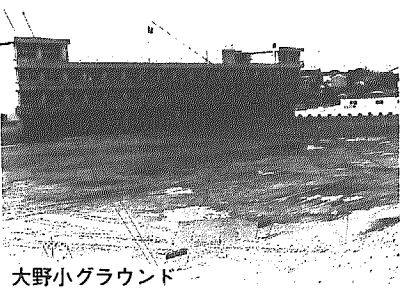
用排水路は土地改良の施設なので、安全の協議をしたい。町道側はガードレールを付けている。

消防団が実際には管理している。昇つてはいけないことを保育所、小学校に連絡した。撤去については、消防団と話し合っただけだ。

黒崎中の夏休みの補修授業の徴収金は 大きい。今年から先生への手当を廃止

G議員 黒崎中学校における高校入試対策について、中学校が夏休み中に3年生を対象に補修授業で、去年は生徒から五、六千円徴収していた。この使いみちは、父母からお祝い金という声があるが、どうもこのままでは公務員としてやはりまじいと思う。今年からはやめることにした。

大野小グラウンド等学校施設の保全是 急ぐものから。大野は堤防工事後の後に



大野小グラウンド

G議員 学校施設の営繕、保全については、先日大野小の運動会は雨でできなかった。同じ日に他校はできた。不平等ではないか。グラウンドの改修が必要だ。どういうレベルで営繕、保全しているのか。教育長 学校の設置は町、管理は学校長。破損、老朽化など危険度、緊急度などを聞いて予算措置している。大野小は中の口川堤防の改修が予定されているので、その工事が終わったらと考えている。

夜の町長室は独断に陥る。議会は最重要

G議員 青木町長の過去3年間の行政効果について ①都点、矛盾点が多い。町長は何

をしてきたのか。具体的に聞きたい。②夜の町長室は直接声を聴けるが、長が一存で決めるという欠点がある。民主主義は公開、審議が原則である。町民の代表としての議会もある。前時代的ではないか。どの程度利用されているのか。



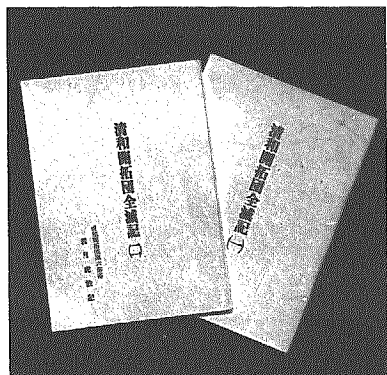
夜の町長室

収入役を廃止する町村ある。黒崎町は人口、財政が増大している

G議員 特別職の職責について 助役、収入役、教育長にそれぞれ職責があるが、朝日新聞に全国の89町村が収入役を廃止したと報道している。行革の意味からも収入役は置かなくてもいいのではないかと。町長 収入役を置かない町村の大半は一万人以下の自治体であり、黒崎町は年々人口も増え、財政規模も大きくなっている。必要である。

黒崎町の今昔

町史編さん課

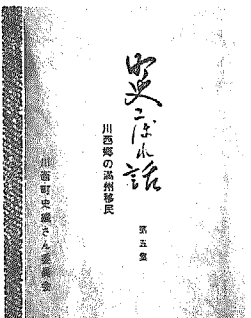


清和開拓団全滅記(一) 清和開拓団第六部落の若月虎治さんの著。山際さん一家はこの開拓団に所属していた。

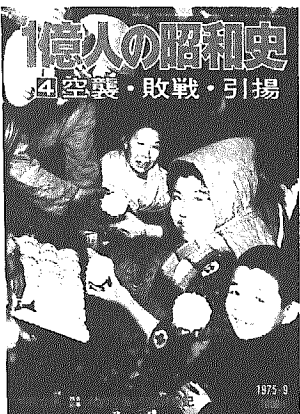
満州国移民の軌跡(八) 昭和二十一年十月、齊藤さんも山際さんもようやく日本へ帰る

遼東半島近くのコロ島の収容所で、齊藤さんらは一日ほど過ごした。それから、ようやく待ちに待った引揚げ船(貨物船)に乗船させられた。「船に乗り、やっと満州から離れられたと、だっくらした。が、しかし、またどこかへ連れていかれるのでは」と心の中でまたビクビクしていた。このころ、その時の齊藤さんの心境だった。本当に帰れたと感謝し、心から喜びがこみ上げてきたのは、船の上から九州の博多が見えてきた時と、博多の土を踏んだ時だった。

町史こぼれ話 第5集 (川西町町史編さん委員会発行) 川西町などのように分村という形で、満州へ移民したところもあった。



町史こぼれ話 第5集



1億人の昭和史第4巻「空襲、敗戦、引き揚げ」(毎日新聞社刊) 当時の様子を写した貴重な写真を見ることができる。

一刻も早く上陸したいと願う引揚げ者たちの気持ちこそ、コレラなどの検疫やその他の防疫のためから、三日間も船内にとめて置かれた。船から降り、本土の土を踏

訪問住民と議会のどちらを重視するのか。

町長 ①新しい事業としては、商工振興課、企画開発課、町史編さん課の設置、②防犯灯の設置、③交通安全推進員の設置、④私学助成、黒崎高校への助成、⑤集合ダイケア事業、長寿祝金、シルバーホーン、カ、立仏14号線など道路整備、⑥観光物産センターの誘致の成功。⑦5時を過ぎた後も、町民の声を広く直接聴きたい。町民も直接言いたいことがあると思う。議会は最重要と認識している。 総務課長 ②62年3月まで32回実施し68件扱っている。62年度は19件。

収入役を廃止する町村ある。黒崎町は人口、財政が増大している

町長 収入役を置かない町村の大半は一万人以下の自治体であり、黒崎町は年々人口も増え、財政規模も大きくなっている。必要である。

んだ人々のところへ物売り(闇屋)がやってきた。当時は敗戦間もなくのころで食糧統制下であったのに、取締りの網をくぐって、真っ白い米の握り飯を売っているのだ。腹をすかした子供たちは白いお米の握り飯を見ると、「ママが食べたい」と泣いてせがんだ。親たちもまた一年以上も食っていない内地の白い米の飯だったから、のどから手が出るほど欲しかった。しかし、満州ですべてを失い、無一文になって帰国した人々のふところには、一銭の持ち合せもなかった。

齊藤さん無事帰宅する 引き揚げ者の収容所で、ようやく温かい飯を食べて数時間間の休憩の後、引き揚げ者たちの出身地の状況(戦災の模様)などが知らされ、一家に十円ほどの金と旧軍隊の放出品の毛布や子供たちに何枚かの衣類が与えられた。 齊藤スイノさんが子供たち二人を連れ、新潟駅に着いたのは十月二十七日だった。新潟駅でスイノさんは知人から夫の三代次さんが二十年の十一月に、戦地から無事に帰還したことを聞かされ、安堵した。

一方、先に実家に帰っていた三代次さんは、満州に残してきた妻子のことで、悶々と

議会メモ

*議会の開会

定例会と臨時会があり、定例会は3月、6月、9月、12月に開かれる。臨時会は必要があるときに。招集は町長がする。また、4分の1以上の議員から招集の請求があれば、町長は招集しなければならない。昭和62年は定例会は4回のべ42日、臨時会は4回のべ4日間開かれた。

*議案

議案の主なものは一般会計や補正予算などの予算関係、条例の制定や改正など条例関係、助役選任などの人事関係などである。議案は町長から提出され(議員提出もあるが少ない)、委員会で審議された後、本会議で議決する。昭和62年は72議案提出され69議案が可決された。

*一般質問

議員は本会議で一般行政に関する質問ができる。議員の持ち時間は20分。回数は4回までと黒崎町議会ではなっている。昭和62年はのべ29人の議員が一般質問

を行った。 *請願、陳情 国や県、町などの行政へ意見や要望があればだれでも提出できる。請願は議員の紹介があるもの、陳情はないものをいう。採択されると、国、自治体などに実行するよう町議会として求める。昭和62年、請願は12うち採択11、陳情は6うち採択5であった。 *傍聴 あらかじめ議長の許可を得れば議会はだれでも傍聴できる。傍聴しようとする日、役場2階にある議会事務局で申し込む。昭和62年はのべ219人が傍聴している。 *議員定数 議員の定数は地方自治法で人口5万未満2万人以上の自治体は30人となっているが、条例で減少することができる。町議会は定数を減少する条例を制定し26人にしている。今も検討するため、議員定数検討特別委員会を設けている。 *委員会 複雑多岐にわたる議案や請願などを本会議で議決する前に十分審議できるように設置してある。常任委員会が4、特別委員会が7である。

いた日々を送っていたが、十月に妻子の無事帰国の知らせがあった。到着の日には、新潟駅まで出迎える考えだったのだが、予定より一日早くスイノさんが到着したため、出迎えができなかったという。山際さんも帰宅 きて、新卒の収容所で姑と死別した山際としさんも、齊藤さんと同じコースで帰国した。十月半ばに博多港に着き、その収容所で着物をもらって、新潟へ向かった。そして、大友(現在、新潟市)の実家へは昭和二十一年十月十九日に到着したというから、齊藤さんよりは約一週間早かったことになる。

夫の由衛さんはシベリヤに抑留され、二十三年六月に帰国した。 三十七年目の再会 前回、齊藤さんらと帰国する途中、新卒で行方不明になった子供について触れたが、昭和五十八年に中国残留孤児として来日したうちの一人がその子であることがわかった。 新卒で行方不明になった子供の名前は田中一三だった。第三回中国残留孤児訪日団の中に日本名は「文」か「文〇」という人がいたのである。もしや、と思った中蒲区の知人が田中さん一家に知らせ、父親の慎吾さんと兄が画会した。一三さん自身気づかなかった頭の傷あとを兄が覚えていて、それが決まってきた。 こうして田中さん父子は三十七年ぶりに再会することができたが、残念なことに、新卒の駅ではぐれてしまった母親は昭和五十五年になくなっていて、再会を果たすことができなかった。 現在、一三さんは家族とともに日本に帰国し、新潟市内に住んでいる。 死者行方不明九万人 厚生省調査による終戦時の満州移民団は二十七万人といわれ、このうちソ連軍の侵入で戦死または自決した男女は一万二千人、どこへ消えたか行方不明者が一万一千人、疫病や飢え、酷寒などで死亡した者六万七千人、さらわれたり、買われたり、はぐれたりして残留孤児となった子供たちが一千人で、その合計は九万人と推定されている。 執筆・宮田栄門、取材協力・齊藤スイノさん、山際としさん、塩田誠さん ※町内で、満州へ移民されたかたがまだいらつしやると思っています。その貴重な体験を町史を編むうえで参考にしたいと考えていますので、ご連絡をお待ちしています。(宮田栄門 ☎378・7872(昼間))